

救助院について（授産場）

出津救助院の職業訓練の中心となった授産場は、1883 年に建設されました。ここでの活動は、製糸や染色から、パン、日本のそうめん、醤油などの製造にまで及びました。

この建物の強い基盤を作るため、彼は吸水性の高い赤い粘土を砂と石灰を混ぜたものに、外海で採掘した石を重ねました。この方法で作られた壁は、ド・ロ壁と呼ばれました。ヨーロッパの技術が取り入れられた壁は、さまざまな建築に使われ、外海で見ることができます。

この授産場は、近代の社会福祉プロジェクトの初期の例であると同時に、明治時代(1868-1908)の特徴である新しい西洋の技術と素材を用いて作られた建築の初期の例でもあります。2003 年に、この建物は、国の重要文化財に指定されました。